

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒105-0014
 住 所 東京都港区芝3丁目8番2号
 氏 名 JFEミネラル株式会社
 代表取締役社長 齊藤 輝弘 印
 (代理人)京浜製造所 所長 天笠 敏明
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	JFEミネラル株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区扇島1-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	21	窯業・土石製品製造業
主たる事業 の内容	鉄鋼スラグ製品の製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	*****	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
		メールアドレス	

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2022 年度 ~ 2024 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

弊社は”環境と調和した事業活動を通じて豊かな社会づくりに貢献する”を理念に環境への取組みを推進している。京浜製造所としては、JFEスチール東日本製鉄所（京浜地区）が令和5年度上期に上工程を休止する計画により、弊社の本計画書に該当する設備も休止することを踏まえ、下記の基本方針のもとで活動する。

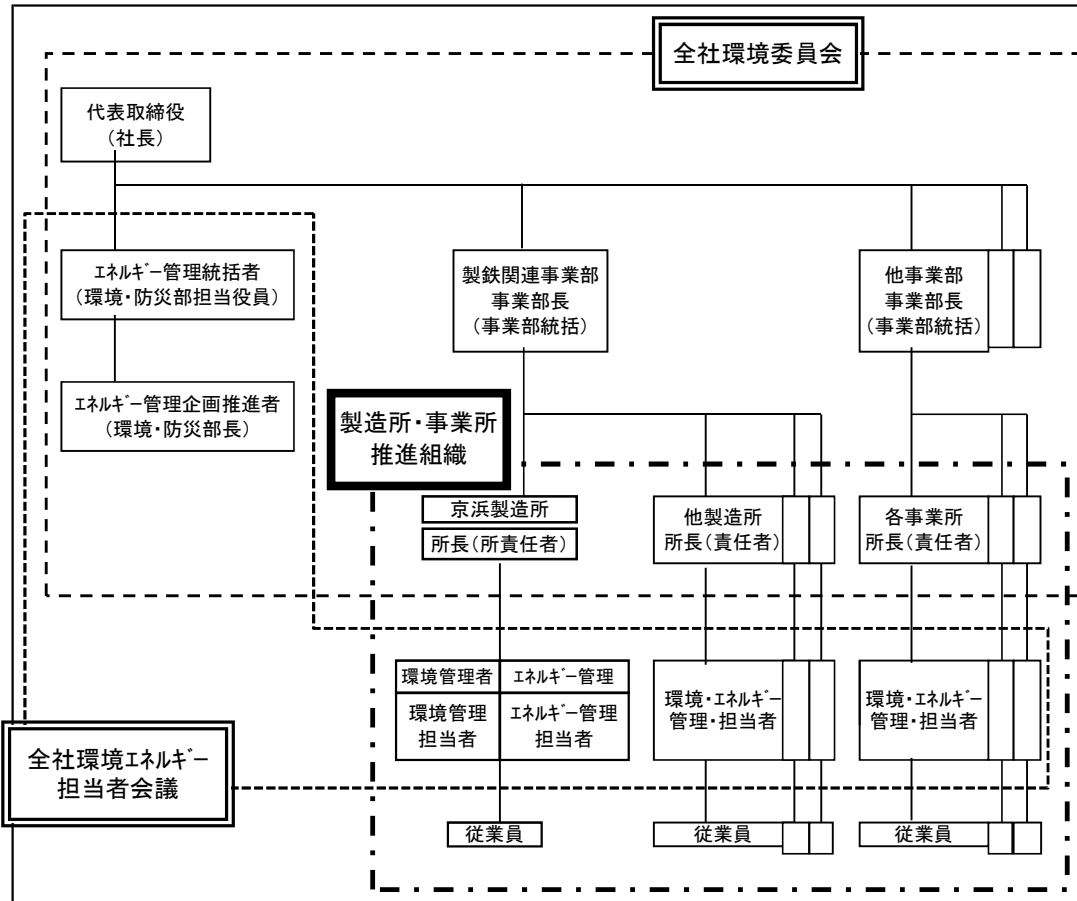
【基本方針】

- ① 休止までの期間は、現状（基準年度）のCO2排出量レベルを維持すべく、計画的な設備保守・整備を実施し、安定稼働により排出量（原単位）が増加しないように努める。
- ② 環境マネジメントシステムの課題の一つとして、省エネルギー・CO2削減を念頭入れた活動に取り組む。
- ③ 従業員・協力会社への環境教育を実施し、省エネルギー意識の向上を図る。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

- ① 休止までの期間は排出量原単位維持を目標とし、毎月の環境会議において月々の実績管理と情報共有化により、原単位増加となるような要因の排除に努める。
- ② 上記の環境会議の情報を踏まえ、月々の水砕設備操業実績検討会において、排出原単位維持・増加要因の排除に関する取り組みについて検討する。
- ③ 半期に1度、半期の排出原単位の実績についてレビューし、排出原単位が現状維持ないしは減少している場合はその継続に関して、①②において増加の要因が特定されている場合にはその対応計画が、確実に実行されるようにする。
以上の方針でPDCAサイクルを実行・管理する。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
基準	年度	2021 年度	
目標	年度	2024 年度	
基準	排出量	(実) 3,063 (調) 3,050 t-CO ₂	(実) (調) t-CO ₂
目標	排出量	(実) 3,063 (調) 3,050 t-CO ₂	(実) (調) t-CO ₂
削減量		(実) 0 t-CO ₂	(実) t-CO ₂
内訳	対策実施による削減量	(実) 0 t-CO ₂	(実) t-CO ₂
	上記以外の削減量	(実) 0 t-CO ₂	(実) t-CO ₂
削減率		(実) 0.0 %	(実) %

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
原単位等の活動量		生産数量	
原単位の単位		t-CO ₂ /千t	
基準年度の値		3.166	
目標年度の値		3.166	
削減率		0.0 %	

ウ 目標設定に関する説明

<p>JFEスチール株式会社殿の、京浜地区の上工程休止計画（令和5年上期に休止）の発表に伴い、本計画書の対象となる水砕設備も同時に休止することとなった。</p> <p>そのため、省エネルギーに関する新たな設備投資や新技術の導入等は実施することなく、休止までの期間を現状維持に必要な整備・補修によって、設備の安定稼働で対応し、令和4年度～6年度の計画においては、休止までの期間、基準年度である令和3年度の排出原単位維持するという目標とした。目標年度の排出量・原単位は休止までの目標値とする。</p>
--

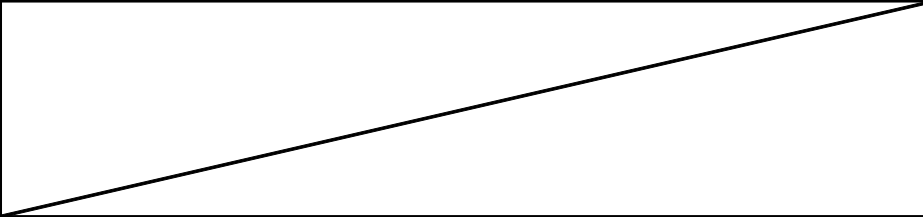
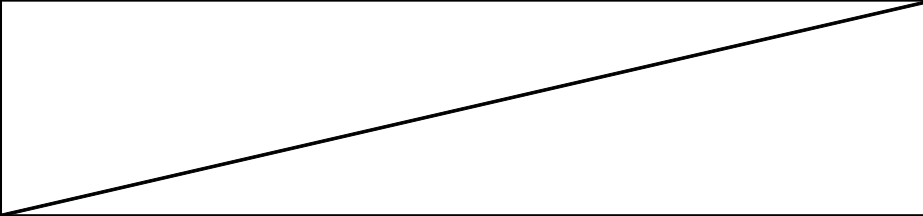
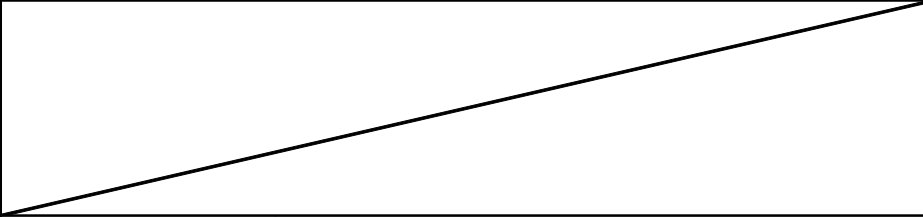
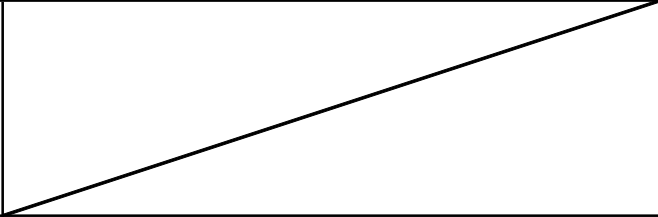
(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

--

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>○主要設備等の保安全管理 ・設備整備の安定稼働に向けた整備・補修計画の策定と実行 ・管理標準の定期見直し ・オペレーターへの設備教育による点検レベルアップ、稼働環境維持・改善</p> <p>○生産設備のエネルギー管理 (毎月環境会議でエネルギー原単位実績を確認)</p>
<p>第1年度</p>	
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

<p>○各設備の管理標準の作成及び所としての環境・エネルギー管理マニュアルの作成</p> <p>○ポンプ及びファンの運転管理 (・ 操業条件に応じた台数制御の仕組みの導入) (・ 運転方案見直しによる常時稼働ポンプ1台の停止)</p> <p>○高炉要因による稼働率悪化対策工事の実施 (稼働率向上により排出量原単位削減)</p> <p>○屋外照明の昼間消灯</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	<p>○高炉水砕スラグによるセメント製造業でのCO₂排出抑制 川崎市のセメント製造会社に高炉セメント原料として販売 【高炉セメントの効果】 高炉セメントは水砕スラグの微粉末とポルトランドセメント混合により製造される。 水砕スラグの混合により、普通ポルトランドセメントの主要原料である石灰石資源の消費を約45%削減でき、製造時の工程を省力することでエネルギーを約45%削減できる。 これらにより、普通ポルトランドセメントの製造エネルギーによって発生するCO₂排出量に対して、高炉スラグの製造エネルギーによって発生するCO₂排出量は約40%減少する。</p>
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	<p>○従業員への環境・省エネルギー教育を定期的に行い、意識の向上を図る。 ○関係協力会社の省エネルギー活動を支援する。 ○運搬業者との協議を密にし、運搬作業の効率化による燃料削減を図る。 ○フロン排出抑制法に則り、第一種特定製品の点検・管理を行い、フロン類の漏えいを極力防止する。</p>
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	3,063	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

※※※※	KL
------	----

ウ 事業所の数

1

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
JFEミネラル株式会社 京浜製造所	川崎市川崎区扇島1-1	3,063 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂